

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 月 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	河本悠吾

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
新潟県妙高市
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 8 月 1 日 ~ 平成 28 年 8 月 4 日 (4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
杉山茂氏
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習は、火打山登山などを通してフィールドワークの基礎となるサバイバル技術を学ぶことを目的に、以下の日程で行われた。
日程 8/1 午前 移動(犬山→笹ヶ峰) 午後 実習ガイダンス、周辺散策 8/2 午前 涸沢への踏査 午後 ロープワーク講習、登山コース確認 8/3 火打山登山 8/4 午前 ビバーク講習 午後 移動(笹ヶ峰→犬山)
一日目 初日は実習について簡単にガイダンスをしていただいた後、ヒュッテの周辺を散策した。平成の名水百選に選ばれている宇棚の清水を訪れた。水はとても冷たく、おいしかった。
二日目 午前中は涸沢へ行った。途中、急な斜面や岩場があったが、そのような場所で安全を確保しながら進む方法を教わりながら突き進んだ。道中様々な植物や生物に出会い、それらについて教えていただいた。特に植物は、利用できる種もあれば、棘があったり、触れると皮膚が炎症を起こしたりする種があったりと、気を付けなければならない種が意外と多いと感じた。休憩をしていた岩場で雨が降り始め、引き返すことになった。その後すぐに止んだが、ヒュッテにつくと同時に大雨となった。引き返すか進むかの判断は難しいが、しっかり状況を見極めなければ後々大変なことになると感じた。特に今回は岩場を登っていたこともあり、大雨の中帰ることになっていたら非常に危険なので、あの段階で帰ることを決めた判断は正しかったと思う。 午後からはロープワークを学んだ。多くの状況に対応した様々な結び方があり、覚えるのは大変であった。今回の登山では使わなかったが、雪山登山などでは身を守るために必須であると感じた。また、私生活で役に立ちそうなものもあったので、ぜひ活用してみたい。
三日目 火打山登山のため、早朝 5:50 ごろにヒュッテを出発した。本格的な登山は今回が人生で初めてであった。前日は雨が降っていたために、登山道はぬかるんでおり、何度も足を取られた。私にはどんな急な斜面よりもこの地面のぬかるみが苦痛であった。また、雨が降ったり止んだりを繰り返し、その度に合羽を着脱するのは大変であった。

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

道中は主に植物について教えていただきながら、時には果実を食べながら進んでいた。野イチゴなどを食べるのは初めてだったが、多くのは熟していても酸味が強いものばかりだった。多くの時間は曇っており、あまり景色を見ることはできなかった。しかし時折雲の合間から見えた景色はとても美しかった。特に山頂付近は植物の背丈も低くなるため、遠くが良く見渡せた。山頂からは、隣の焼山からガスが出ているのが観察できた。下山の際は、帰りで疲れているということもあるだろうが、足にかなり負荷がかかっているように感じ、登りよりも辛かった。帰るころにはふくらはぎはパンパンだった。一日かけて登山をしてみて、命の危険などを感じることはなかったが、天気には振り回されるような状況を経験して、登山の大変さが少しわかった気がした。しかしながら、それらの辛いことがあるからこそ、見える景色をよりきれいだと感じられるのだと思った。

### 四日目

最終日はビバーク講習を受けた。緊急時の対応について教えていただいた。天候や風向きなどを考慮した対応が必要なこと、緊急用テントの様々な使い方について学んだ。



宇棚の清水



ヒュッテ



山頂付近からの景色



ビバーク講習の様子

### 6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS の支援により行われました。また、本実習に際し、ご指導いただきました杉山茂氏に感謝申し上げます。